



ごあいさつ

理事長 杉本 宗之

平素より、私ども「四国ろうきん」をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

本年もここにディスクロージャー誌「2021四国ろうきんの現況」をお届けします。

「ろうきん」は、かつて「金融排除」された労働者や生活者が「相互扶助」の精神で資金を出し合って創った「協同組織の福祉金融機関」であります。「四国ろうきん」誕生以来20年、激変する経営環境の中で着実に成果をあげてくることができましたのも、会員各位をはじめ関係団体のご指導ご支援によるものであり、改めて感謝を申し上げます。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症に翻弄された本当に大変な一年でございました。

一時的には「営業活動の停止」という経営判断をせざるを得ない状況もございましたが、「第7期中期経営計画」の総仕上げの最終年度ということもあり、掲げた「大改革の完遂」と「高付加価値・お役立ち・提案営業」の2大テーマの下、勤労者の生活向上という「理念経営の実現」や「金融包摂」による事業存続の礎を築く施策を積極的に行って参りました。とりわけ、「ろうきんアプリ」やiDeCoなどの積極推進で、次世代に向けた「ろうきんブランド力」の向上を目指したところでございます。

その結果、収支面では、経常利益は10億60百万円（計画比+96百万円）、当期純利益は7億69百万円（計画比+65百万円）と、コロナ禍や低金利環境という厳しい状況下においても尚、計画を達成することができました。なお、自己資本比率は、10.39%となりました。

2021年度は、10年後のあるべき「四国ろうきん」を「未来起点」に策定した「第8期中期経営計画」がスタートします。将来にわたって会員やお客様に信頼され選択され愛される『四国ろうきん』になるため、「金融包摂」「持続可能」そして「コンプライアンス経営の徹底」といったキーワードを追加する形で現行の「経営ビジョン」及び「クレド」を改訂させて頂きました。

コロナ禍は今暫く続く事でしょう。「四国ろうきん」はこのように激変する社会環境にもしっかりと対応し、掲げた目標の達成を目指します。世の中が混乱する今こそ「四国ろうきん」の社会的存在意義を自覚し、「協同組織福祉金融機関」としての矜持を胸にその使命を果たして行く所存でございます。役職員一丸となってこの難局を乗り切る覚悟でございますので、どうぞ会員の皆様方におかれましても、これまで以上のご理解とご支援をお願いするものでございます。

このディスクロージャー誌は、「四国ろうきん」の機能や役割、そして2020年度の業況等を取りまとめたものです。本誌によって、私どもに対するご理解を一層深めて頂ければ幸いに存じます。

2021年7月